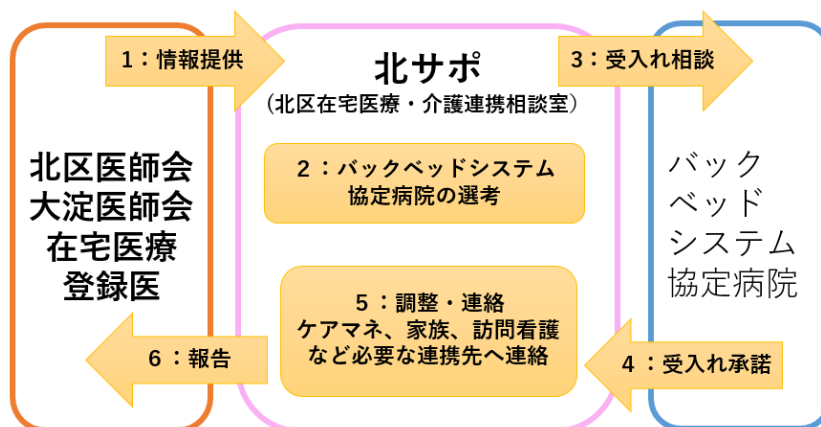


<北サポ通信>平成 31 年 1 月号

謹賀新年

よいお正月をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今回は、北サポが窓口となっているバックベッドシステムについてご紹介します。北区医師会・大淀医師会が、区内内の在宅医療を推進することを目的として、区内の協力病院に在宅医療における後方支援を依頼し、両者間で協定を取り交しました。この協定を「北区医師会・大淀医師会バックベッドシステム」と呼んでいます。このシステムを利用できるのは、原則、北区在宅医療登録医となっております。平成 29 年 11 月に地域包括ケア病棟のある済生会中津病院と協定を締結いたしました。平成 30 年 3 月には療養型病床のある加納総合病院、5 月には同じく療養型病床のある行岡病院と協定を締結しました。実際の流れは、下記の図の 1 から 6 の順になっております。



相談件数は、7 件（平成 30 年 1 月～11 月）で、うち、入院となった件数は 4 件でした。済生会中津病院が 2 件、加納総合病院が 1 件、行岡病院が 1 件です。後送病院を選定するときは、各病院の入院要件、本人や家族の希望、受診歴、住居からの距離などを目安にしております。また、依頼があっても相談のみとなった 3 件は、入院にならずとも多職種の連携を図るなど、何らかの対応をいたしました。

7 件の相談を通じて 2 つの課題がみえてきました。一つ目は、急な入院に対する患者・家族の心構えの不足です。入院に際し、病院から CPR について尋ねられることがあります。日頃から人生の最終段階の医療とケアについて考えておく必要があるということです。二つ目は、患者のニーズと協定病院受入患者条件の相違があり、入院に至らないことがあるということです。これについては今後の課題と思われま。

在宅医療を広く進め、安心して在宅での治療に取り組むためには病院の後方支援は欠かすことの出来ない協力体制です。少しの入院で自分らしい在宅療養を長く送ることが出来ます。北サポとしては課題に取り組み、さらに円滑な運用を目指したいと考えています。

これからもお気軽に北サポをご活用ください。